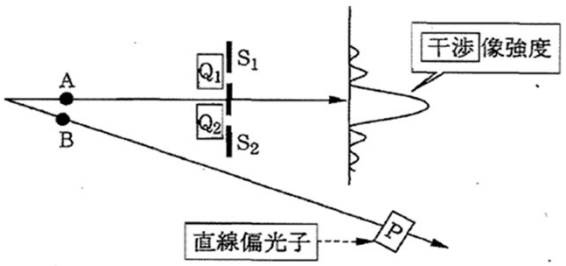
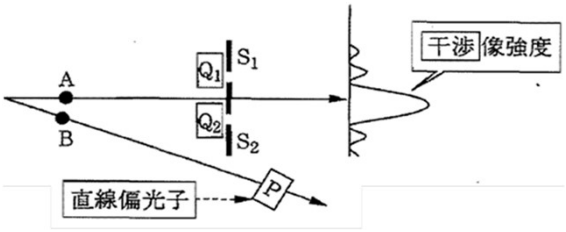
『基礎電子物性工学』(電子情報通信レクチャーシリーズ B-11)（第5刷） 正誤表

このたびは本書をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書には下記のような誤りがありました。ここに訂正し、謹んでお詫び申し上げます。

頁	箇 所	誤	正
112	図8.7(c)		
113	下から 4～1行目	その際，Pを受光面より遠方に置いて，Aが光子像を結んだ時刻より後にBがPに達するようにしても干渉縞が復活する．つまり，通路に関する情報を後から消去することによって干渉を復活させることができる．すなわち、時間をさかのぼってPの効果が光子A に達しているように映る?!	ここで重要なことは，Pがスリットより後方に置かれているので，A がすでにスリットを通過した後に，「Aが“過去に”どちらの通路を通過したか」に関する情報を消去して干渉を復活させていることである．つまり，あたかも時間を過去にさかのぼってPの効果が光子Bを介して光子A に達しているように映るのである．

⑤